

新国立競技場現行案に対する緊急市民提言

文部科学大臣 下村博文 様
日本スポーツ振興センター理事長 河野一郎 様

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会 共同代表
大橋智子(大橋智子建築事務所)
上村千寿子(景観と住環境を考える全国ネットワーク)
酒井美和子(デザイナー、まちまち net)
清水伸子(一般社団法人グローバルコーディネーター)
多田君枝(『コンフォルト』編集長)
多見貞子(たてもの応援団)
日置圭子(地域文化企画コーディネーター、粋まち代表)
森 桜(アートコーディネーター、森オフィス代表)
森まゆみ(作家、谷根千工房)
山本玲子(全国町並み保存連盟)
吉見千晶(住宅遺産トラスト)
メール info@2020-tokyo.sakura.ne.jp
ホームページ <http://2020-tokyo.sakura.ne.jp>

1. 現行案をあきらめること

現行案がもつ5つの致命的なリスク(建設費、工期、技術的困難、維持費、環境負荷)を回避するため、現行案をあきらめ、計画を白紙に戻すこと。

2. 過去の競技場を指針とすること

国立競技場が解体され、更地になった現在だからこそ、神宮外苑の歴史的な意味と環境的な価値を直視して再考すること。そのためにあの場所に負荷のかからないように適切な規模で建設された過去2つの競技場(1924年に作られた神宮外苑競技場と1958年のアジア大会のために作られた国立競技場)を指針とすること。

3. アスリートやスポーツ関係者の意見を集約すること

新国立競技場で行われる競技(陸上、ラグビー、サッカー)にとって適切な機能や設備について、競技主体であるアスリートやスポーツ関係者の意見を集約し方針を定めること。

コンサート等文化イベントは、旧国立競技場と同様に、あくまでも競技場の機能の範囲内で開催すること。

4. 周辺を含めた総合的な検証を行うこと

現行案に欠落している環境への負荷、都市防災、交通問題、自由通路の必要性などの総合的な検証を早急に行うこと。

5. 既存の環境と現在の住民を尊重すること

明治公園や四季の庭などの緑地や公共的な都市公園が果たしてきた意味と、この場所に暮らし続けてきた都営霞ヶ丘アパートの住民を最大限尊重し、居住権を保障すること。

6. 現実の難題を考慮し、誰もが納得できる施設にすること

高齢社会、人口減少、生活を支える基礎インフラの劣化という難題と、東日本大震災の被災者の生活再建を考慮し、誰もが納得できるアジェンダ 2020 に沿ったオリンピック施設のあり方を再考すること。

7. 既存施設の活用を検討すること

その一方で、新国立競技場の新築にこだわることなく、他の場所にある既存のスタジアム(横浜、浦和、調布、駒沢等)の改修活用の可能性を検討すること。

8. 第三者検証委員会を設置すること

これほど問題の多い計画がなぜ、精査されることなく突き進んでしまったのかを検証し、二度とこのような事態を起こさないために、第三者による検証委員会を設置し、原因を追求すること。

その検証をふまえた上で、今後は方針決定のプロセスを公開し、市民参加の仕組みを作ること。